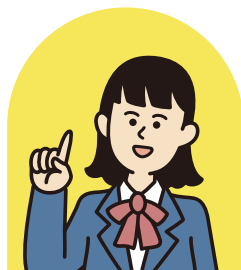


2024年4月開講

# 上智地球市民講座

地球に生きる市民として、自らの生き方を 自らデザインする  
～上智で出会う一歩先の自分～



上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

学長メッセージ

## 『地球市民』としての 生き方を、自らデザイン するための学びに



上智大学長

### 曄道 佳明

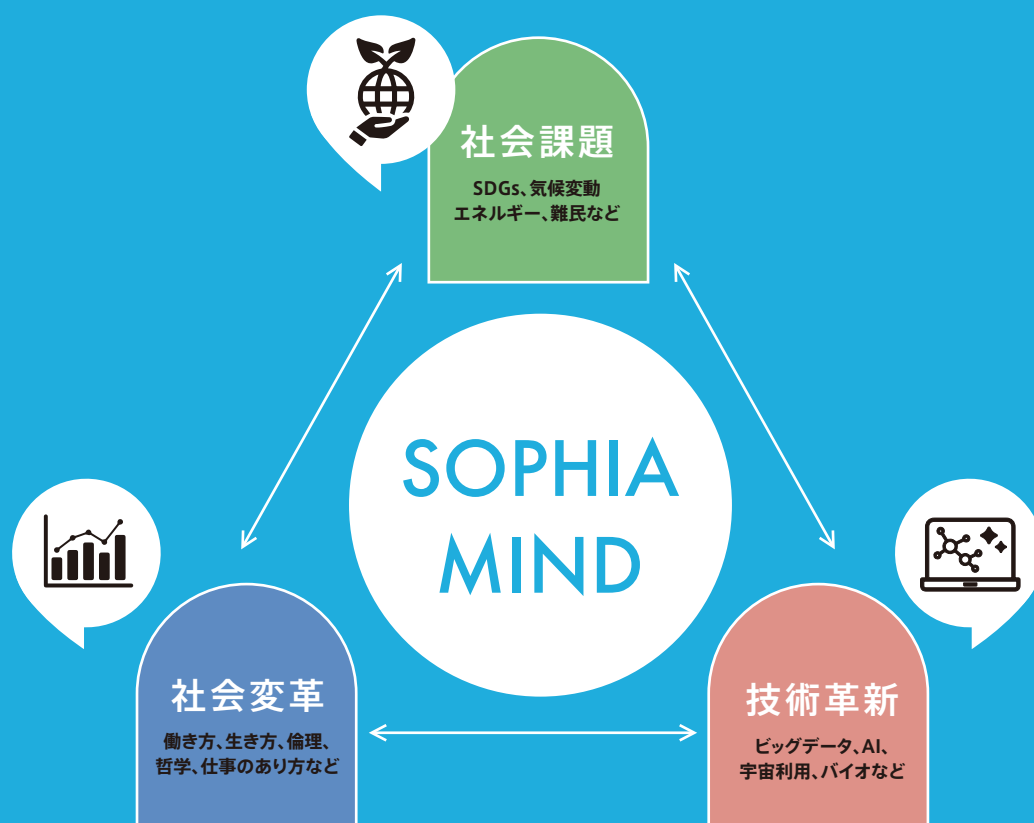
近年の急速な社会情勢の変化の中で、私たちは地球に住む市民として、どのように生き、社会に参画することで、よりよい自分や社会を実現できるのでしょうか。

本学では、全ての人に開かれ、全ての立場が交流し、全ての目的に開かれる学びの場として、多様な立場の方が集い、様々な視点から議論し、新たな価値を創出する機会を提供するべく、“上智地球市民講座”を開設いたしました。

本講座を通して、「智を展開する場」、「智が交流する場」を経験していただきたいと考えます。本講座では、どのような時代、社会背景にあっても、前向きに自らの生き方をデザインし、個を深め、“生きる”を彩るきっかけを得ていただけるものと確信しています。

# 上智地球市民講座とは？

社会変革の時代に、自らの『地球市民』としての生き方を、  
前向きかつイノベティブにデザインするための学びです。



「上智地球市民講座」は、国内外で同時進行しているこれらの事象と向き合い、  
自分がどのように生きていくべきか、Sophia Mindをベースに考えていく講座です。

## SOPHIA MIND

MIND  
01

“個”を深める  
自分に対する気づき・オリジナルな経験

MIND  
03

“未来”を見つめる  
今を知る・社会と自分の展望

MIND  
02

“生きる”を彩る  
多角的視座・異質との出会い

MIND  
04

“他者”に寄り添う  
自身の相対比・他者との向き合い・奉仕

## 戦争システムから平和システムへ —植民地時代の遺産としての民族紛争と宗教を考える—

今日世界が直面している一番大きな危機は気候変動でしょう。にもかかわらず各国は協力してその課題解決に邁進するのではなく、世界各地では戦争が続いています。各国の軍事費は増大し、軍需産業は潤っています。自然の荒廃を無視し、気候変動を引き起こしている産業開発のスタイルは「戦争システム」を支えてきた体制と表裏一体です。平和、軍縮、環境保全、飢餓解消、脱原発、人権擁護などの要求は、別々の運動なのではなく、「戦争システム」に取って代わるべき「平和システム」を構築するキャンペーンのさまざまな位相です。この講義では、キリスト教の罪理解を出発点とし、私たちの世界を覆う戦争システムを植民地時代の遺産と捉え、その遺産の一つとしての民族紛争に焦点を当て、いかに「平和システム」への転換を目指してゆくべきかを考察します。イギリスの入植を起源とする北アイルランド紛争の和平プロセスを主たる題材とします。

春学期開講日程 第1回 5/21(火)18:30-20:00 第2回 6/4(火)18:30-20:00 第3回 6/18(火)18:30-20:00 第4回 7/2(火)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/1(火)18:30-20:00 第2回 10/15(火)18:30-20:00 第3回 10/29(火)18:30-20:00 第4回 11/12(火)18:30-20:00



神学部  
神学特別契約教授  
小山 英之

## 難民問題と国際政治—歴史と現在—

本講義では、難民問題をめぐる国際政治を、過去と現在に焦点を当てながら明らかにしていきます。難民問題は16世紀から生じたと言われていますが、広く世界に知れ渡ったのは第1次世界大戦時に起こったロシア革命により多数の難民が発生したことを契機としています。このとき以降、国際連盟などを通じた国際的な難民保護枠組みが模索され、また発展していきました。この発展の動きは第2次世界大戦、いわゆる米ソ冷戦を経て現在に至ります。本講義では、難民問題を一貫して「国際関係=政治の問題」として取り扱います。これは、経済目的の外国人労働者受け入れだけでなく、あるいはそれ以上に、難民問題が極めて国益に密接に関わる問題である、ということを示しています。難民問題は一面では極めて重大な人道上、人権上の問題であることは確かですが、同時に、問題への対応を迫られる、またその責任を持つべき国との協力の問題でもあります。(伝統的)安全保障、貿易や金融など経済問題とは異なる国際協力の現状がはたしてどのようなものとなっているのかを正しく理解し、それに基づく議論を展開できるようなスキルの育成を図ることが本講義の目的です。

春学期開講日程 第1回 5/9(木)17:30-19:00 第2回 5/23(木)17:30-19:00 第3回 6/6(木)17:30-19:00 第4回 6/20(木)17:30-19:00

秋学期開講日程 第1回 10/3(木)17:30-19:00 第2回 10/17(木)17:30-19:00 第3回 10/31(木)17:30-19:00 第4回 11/14(木)17:30-19:00



法学部  
国際関係法学科教授  
岡部 みどり

## アメリカと世界、そして日本

国内の激しい分断の中、24年には次の4年間のリーダーを決める大統領選挙を迎えるアメリカ。これからのアメリカ、世界、そして日本の今後を本講座では展望します。覇権国・アメリカはどこに行くのか。ロシア・中国の対立はどうなるのか。日本への影響はどうなるか。そして国際秩序はどう変容するのか。この激動の時代の私たちの針路を受講者の皆さんと検討します。具体的には、1)「アメリカと日本」、2)「アメリカと中国」、3)「アメリカとロシア」、4)「アメリカとグローバルサウス」のそれぞれの過去と現状、そして今後について、検討していきます。それぞれの回を通じて、激変する国際関係の変化を読み解き、今後の私たちの針路を考えていきます。

春学期開講日程 第1回 4/20(土)14:30-16:00 第2回 5/18(土)14:30-16:00 第3回 6/15(土)14:30-16:00 第4回 7/20(土)14:30-16:00

秋学期開講日程 第1回 10/19(土)14:30-16:00 第2回 11/16(土)14:30-16:00 第3回 12/21(土)14:30-16:00 第4回 1/18(土)14:30-16:00



総合グローバル学部  
総合グローバル学科教授  
前嶋 和弘

## 文化遺産からみるグローバルとローカル

文化遺産は誰のものでしょうか。文化遺産の価値は誰が決めたのでしょうか。上智大学が長年取り組んできたカンボジアのアンコール遺跡における調査・研究及び普及教育活動を振り返りながら、現代社会における文化遺産保護の仕組みと国際協力への理解を深めると同時に(グローバルな視座)、地域社会特に遺跡地域に住む人々の日常や信仰実践から文化遺産のありかたを問い直します(ローカルな視座)。

春学期開講日程 第1回 5/25(土)12:30-14:00 第2回 5/25(土)14:15-15:45 第3回 6/8(土)12:30-14:00 第4回 6/8(土)14:15-15:45

秋学期開講日程 第1回 10/26(土)12:30-14:00 第2回 10/26(土)14:15-15:45 第3回 11/9(土)12:30-14:00 第4回 11/9(土)14:15-15:45



総合グローバル学部  
総合グローバル学科教授  
丸井 雅子

## ネット時代におけるテレビ報道の最前線

インターネットの浸透によって、メディアは根本的な変革期を迎えています。これまで報道の一翼を担って「メディアの王様」と呼ばれたテレビにも様々な影響が出ています。「私たちは正しいことを伝えています」。偉そうでやや押しつけがましい姿勢は「マスゴミ」という言葉に象徴される反発を招いてテレビ離れが加速しました。いろいろな要因が重なって「メディアの沈黙」を招いた大手芸能事務所の性被害問題は、既存メディアのこれまでの弱点を白日の下にさらしました。

一方、映像を武器にするテレビからは、これまでとは違ったタイプの調査報道や新たなドキュメンタリー番組も生まれています。そのことはあまり広く知られていません。生まれた時からスマホがネットでつながっている若い世代にも共感する伝え方とは何か。今、メディアの人間たちは模索しています。そんな試みを具体的な映像作品を視聴しながら考えていきます。テレビのドキュメンタリー。ニュース映像。YouTubeなどで配信されるエンタメ要素もあるジャーナリズムの映像。たった1分の映像から6時間の長尺映像まで。それらを事前に視聴して、「映像」の発信について、参加者にそれぞれにどう感じたのかを自ら確認してもらいながら、授業を進めていこうと考えています。

春学期開講日程 第1回 5/13(月)18:30-20:00 第2回 5/27(月)18:30-20:00 第3回 6/10(月)18:30-20:00 第4回 6/24(月)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/7(月)18:30-20:00 第2回 10/21(月)18:30-20:00 第3回 11/11(月)18:30-20:00 第4回 11/25(月)18:30-20:00



文学部  
新聞学科  
特別契約教授  
水島 宏明

## SDGsと平和 —世界で多発する戦争をどう終わらせるのか—

SDGsの16項目である、平和の問題について考える講義です。教員は、20年以上、紛争下の和平調停や、紛争後の平和構築について調査・研究・実務に関わってきました。「平和構築～アフガンと東ティモールの現場から」(岩波新書2009年)、「内戦と平和～現代戦争をどう終わらせるか」(中公新書、2020年)、「ウクライナ戦争をどう終わらせるか～和平調停の限界と可能性」(岩波新書、2023年)などの自著を使いつつ、現代における戦争を終結させるための方策と、その後、持続的な平和を構築する方策を模索します。その中で、日本の世界における役割についても考えたいと思います。

春学期開講日程 第1回 5/17(金)20:00-21:30 第2回 5/24(金)20:00-21:30 第3回 6/7(金)20:00-21:30 第4回 6/21(金)20:00-21:30



グローバル  
教育センター教授  
東 大作

## 実生活に根ざしたサステナブルマテリアルとエネルギー

SDGsと脱炭素社会の実現に向けて、急速にサステナブルマテリアルとサステナブルエネルギーの開発が求められています。すでに様々な試みが繰り返され、実際の成果が世に出つつあります。しかしながら、実生活の中にはまだまだ浸透する気配がなく、情報も先走り気味で、市井に真の情報が浸透しているとは思えません。また、過剰な情報が、サステナブルマテリアルとサステナブルエネルギーの選択を難しくしているのではないのでしょうか。

本講座では、サステナビリティが求められている背景から紐解き、サステナブルマテリアルとサステナブルエネルギーの基礎を理解したいと考えています。今後自身の選択が必要とされる場面で、確かな考えで、どのサステナブルマテリアルとどのサステナブルエネルギーを選択すべきなのかを考えるための知識を共有したいと思います。さらには、皆さんと一緒にサステナビリティを実際の生活に取り入れる工夫を考えてみましょう。

春学期開講日程 第1回 5/7(火)18:30-20:00 第2回 5/14(火)18:30-20:00 第3回 5/21(火)18:30-20:00 第4回 6/4(火)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/1(火)18:30-20:00 第2回 10/15(火)18:30-20:00 第3回 10/22(火)18:30-20:00 第4回 10/29(火)18:30-20:00



理工学部  
物質生命理工学科教授  
陸川 政弘

## 日本社会の格差と教育

本講座は、SDGsの目標1にある「貧困をなくそう」や10の「人や国の不平等をなくそう」と4の「質の高い教育をみんなに」の関係について、日本社会を中心に講義します。また、SDGsの目標が持続可能なdevelopment(発展/開発)であることに焦点を当て、格差・不平等と教育の講義をしていながら、今後の日本社会の発展可能性について考えていきたいと思います。

本講義は、学問的な分野としては教育社会学と呼ばれる分野に属します。教育社会学とは、教育学と社会学の間に位置にする学問分野です。この学問分野の見方・考え方についての基本的な内容も含む予定です。

春学期開講日程 第1回 5/15(水)19:10-20:40 第2回 5/29(水)19:10-20:40 第3回 6/12(水)19:10-20:40 第4回 6/26(水)19:10-20:40

秋学期開講日程 第1回 10/2(水)19:10-20:40 第2回 10/16(水)19:10-20:40 第3回 10/30(水)19:10-20:40 第4回 11/13(水)19:10-20:40



総合人間科学部  
教育学科教授  
相澤 真一

## AIの社会への貢献と課題—貧困問題編—

人工知能(AI)は貧困削減などのSDGsに貢献できるのか?第3次AIブームにより社会が大きく変容している現在、この問いに対するクリアな答えは残念ながらありません。開発途上国では、確かにAIを含むデジタル技術により医療や教育、金融などサービスの質が大幅に向上している分野がある一方、AIやロボットによる自動化技術により工場等で働く人々の雇用が奪われたり、AIを利用できる人々と利用できない人々の間で経済的格差が拡大するのではないかといった懸念を上げる声も少なくありません。この講座では、AIが貧困削減をはじめSDGsの様々な目標に対してどのように貢献できるのか、あるいはどのような負の影響を及ぼしうのかについて、最新の事例や研究を通して学習します。扱うトピックは経済、医療、教育、環境、政治など多岐にわたります。様々な分野におけるAIの功罪を問うことで、途上国における政策や国際協力のあり方について再検討し、ひいては私たち自身の今後の暮らしや社会について考えることを目指します。

春学期開講日程 第1回 5/22(水)18:30-20:00 第2回 6/5(水)18:30-20:00 第3回 6/19(水)18:30-20:00 第4回 7/3(水)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/9(水)18:30-20:00 第2回 10/23(水)18:30-20:00 第3回 11/6(水)18:30-20:00 第4回 11/20(水)18:30-20:00



経済学部  
経済学准教授  
倉田 正充

## 環境と健康をつくるサステナブルマテリアル

持続可能な社会を目指した材料開発が近年非常に注目を集めています。プラスチック等の高分子材料は私たちの生活を支える重要な材料ですが、一方で、回収がうまく行かない場合には、マイクロプラスチックなどの環境問題を引き起こすこともあります。そのような背景のもと、生分解性高分子が注目を集めています。

生分解性高分子は土壌、海洋中、生体内で微生物や酵素の働きにより、二酸化炭素や水などの低分子に分解可能で、環境低負荷な高分子です。生分解性高分子には、バイオマス由来、または石油由来の原料から得られるものがあります。一部の生分解性高分子は、人工骨などのバイオマテリアルにも用いられており、私たちの健康維持にも活躍しています。

本講座では、生分解性高分子の基礎を学びつつ、環境問題と高分子の関わりや、環境循環型材料・バイオマテリアルへの発展に向けた応用についても扱います。受講の皆さんとSDGsと一緒に考えたいと思います。

春学期開講日程 第1回 6/7(金)18:30-20:00 第2回 6/21(金)18:30-20:00 第3回 7/12(金)18:30-20:00 第4回 7/19(金)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/4(金)18:30-20:00 第2回 10/18(金)18:30-20:00 第3回 11/8(金)18:30-20:00 第4回 11/22(金)18:30-20:00



理工学部  
物質生命理工学科教授  
岡田 裕子

## 生活の中のサステナブル・イノベーション

人類は革新的な技術の創生を繰り返すことで、豊かで便利な生活を手にしてきました。しかし、このままでは資源消費や環境汚染の観点から地球が持つ能力の範囲を超えてしまい、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような社会(持続可能な社会)」を迎えることができないことが分かってきました。このため、「21世紀は環境の世紀」といった漠然とした考え方から、最近ではサステナビリティ(持続可能性)とイノベーション(技術革新)からなる、「サステナブル・イノベーション」という考え方に変革しています。この新しい考えに基づいて、身近なさまざまな「モノ」や「コト」が変わり始めています。

本講義では、令和の時代が抱える地球温暖化、エネルギー、循環型社会などの多種の問題を鳥瞰的に見据え、さらに複雑かつ多面的な生活を満足させることのできるサステナブル・イノベーションについて、私たちの身近な暮らしを例に図解で説明します。

春学期開講日程 第1回 5/22(水)18:30-20:00 第2回 5/29(水)18:30-20:00 第3回 6/5(水)18:30-20:00 第4回 6/19(水)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/14(月)18:30-20:00 第2回 10/28(月)18:30-20:00 第3回 11/11(月)18:30-20:00 第4回 11/25(月)18:30-20:00



理工学部  
物質生命理工学科教授  
堀越 智

## 異常気象も見据えた防災のあり方

本講座は、防災の基本原則を理解したうえで、実践的な戦略を主体的に考える力を醸成することを目的とします。防災のための取組は、公的(フォーマル)な制度・施策と、家族や近隣住民・地域社会といった私的(インフォーマル)な関係の中で行われるものがあります。その両方の利点や限界を知り、災害という非常時に、自分や自分の大切な人、地域や社会の誰かの命や心を守るために、平時の今、備えておけることについて考えましょう。

講座は、座学とグループ演習で構成されます。座学では①異常気象や各種自然災害がもたらすリスクとそのマネジメント②災害対策に関するテクノロジー・施策、まちづくり③緊急時のコミュニケーション(リスクコミュニケーション)と心理社会的介入④災害時の心理支援・レジリエンス向上を扱います。グループ演習では、防災・減災対策案の検討とその発表を行います。

春学期開講日程 第1回 6/1(土)14:15-15:45 第2回 6/15(土)14:15-15:45 第3回 6/29(土)14:15-15:45 第4回 7/20(土)14:15-15:45

秋学期開講日程 第1回 10/12(土)14:15-15:45 第2回 10/26(土)14:15-15:45 第3回 11/9(土)14:15-15:45 第4回 11/23(土)14:15-15:45



基盤教育センター  
特任助教  
讃井 知

## 「学ぶ」から「動く」へー国際人権規範を使って、自分の暮らしをとらえなおしてみようー

「世界／社会を変えたい」なら、その一員である「自分が変わる」ことから始めてみてはどうでしょうか? 他人事だと思っていたことが自分と関わっていること、個人的なことが地球規模課題とつながっていること、日々の暮らしは政治や社会運動によって変わり得ることを事例から学び、実践につなげるヒントを提供します。性別、性自認、性的志向、年齢、障害の有無、民族、国籍や母語の違い、婚姻や家族構成、就労状況による立場の違いに起因する差別や格差に気づき、その克服を「ソーシャル・アクション」の実践を通じて学びます。

1) 自分自身の学びや行動変容による個人のアクション、2) 仲間と学び、類似の活動を支援するコミュニティ・アクション、3) NGOなどの活動に参加し当事者と直に接する現場でのアクション、4) 仕組みを変えていくための政策提言など社会に対するアクションの4段階をみなさんと議論しながら、デザインしてみましょう。

春学期開講日程 第1回 5/14(火)18:30-20:00 第2回 5/28(火)18:30-20:00 第3回 6/11(火)18:30-20:00 第4回 6/25(火)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/1(火)18:30-20:00 第2回 10/15(火)18:30-20:00 第3回 10/29(火)18:30-20:00 第4回 11/12(火)18:30-20:00



総合グローバル学部  
総合グローバル学科教授  
田中 雅子

## 歴史から現在・未来を読み解くーパブリック・ヒストリーの現場からー

現在、歴史学の分野で、歴史研究・歴史叙述を専門家の独占から解放し、一般社会のひとびととともに考えてゆくパブリック・ヒストリーが盛んになっています。そこでは、過去の事実を云々するだけでなく、歴史的な知識を活かし、現代の私たちが直面するさまざまな問題が議論されています。災害史の知識は、リスク管理に役立ってくれるのか。伝統の保全と環境の改変・開発とは、どのように折り合いをつけるべきなのか。本講座では幾つかの事例を紹介し、受講者とも意見交換しながら、「歴史の応用の仕方」について学びます。

講義予定(変更の場合あり)……①パブリック・ヒストリーとは:宛先のある研究、②四谷キャンパスの史層を掘る:災害から怪談まで、③土地の記憶から再開発を考える:築地市場と神宮外苑、④エクスカッション(講義に関係する地域のフィールドワーク)

春学期開講日程 第1回 5/7(火)18:30-20:00 第2回 5/21(火)18:30-20:00 第3回 6/4(火)18:30-20:00 第4回 6/15(土)10:00-11:30※第4回のみフィールドワーク

秋学期開講日程 第1回 10/1(火)18:30-20:00 第2回 10/15(火)18:30-20:00 第3回 10/29(火)18:30-20:00 第4回 11/16(土)10:00-11:30※第4回のみフィールドワーク



文学部  
史学科教授  
北條 勝貴

## 時事トピックから現代社会を読み解くーお祭りと新宗教の問題を中心にー

本講座では、時事問題を取り上げて、その背景にあるわれわれの社会の現状と将来について考えていきます。具体的には、今年度は、渋谷のハロウィーン事件など、全国のお祭りで生じている問題と、旧統一教会絡みの事件などの新宗教の問題を取り上げます。お祭りも新宗教もそれなりに熱心な人々は存在しますが、それ以外の多くの人びとからは十分に理解されず、しばしば迷惑な存在だと忌避される傾向があります。本講座では、こうした事件の概観とその発生・持続に深くかかわる社会的背景について社会学の立場から解説いたします。その上で、これからどうしたら良いのか、その望ましい将来像についてディスカッションもする予定です。

本年度取り上げる2つのテーマは、容易には理解しあえない他者どどのようにこの社会の中でともに生きていけば良いのか、という課題を私たちに突き付けるものです。グローバル化が急速に進み、多様性(ダイバーシティ)が声高に叫ばれる日本社会の中で、異質で、それゆえ簡単には認めがたい他者どどのように付き合うべきであるのか、少し立ち止まって考えてみたいと思います。皆さんの積極的なご参加をお待ちいたします。

春学期開講日程 第1回 5/11(土)10:00-11:30 第2回 5/25(土)10:00-11:30 第3回 6/8(土)10:00-11:30 第4回 6/22(土)10:00-11:30

秋学期開講日程 第1回 10/12(土)10:00-11:30 第2回 10/26(土)10:00-11:30 第3回 11/9(土)10:00-11:30 第4回 11/23(土)10:00-11:30



総合人間科学部  
社会学科教授  
芳賀 学

## 行動経済学者と考えるこれからの資本主義社会での働き方・生き方

物質的な豊かさを追求してきた20世紀型の資本主義社会は環境問題、貧富の格差、社会的孤立など、多様な問題を生んでしまいました。日本社会はその典型で、最も豊かな国の一つでありながら、幸福度が低く、自殺者が多い社会となってしまっています。行動経済学は人間行動の科学的な知見に基づいて、経済行動や経済現象を理解しようとする学問で、人々の幸福についても研究が進んでいます。この講座では、資本主義社会の光と影の部分を実行動経済学の視点から理解し、その中でどのように働いていくべきか、生きていくべきかを受講者の皆さんと一緒に考えていきます。

予定している講義の概要：行動経済学が考える人間行動のメカニズム／幸福感はどのように決まるのか 幸せな働き方・生き方／資本主義社会において“資本”を持つとは 貯蓄から投資へのシフトを考える／資本主義社会の課題（環境問題 貧富の格差 社会的孤立）を実行動経済学の視点で考える

春学期開講日程 第1回 5/16(木)18:30-20:00 第2回 5/30(木)18:30-20:00 第3回 6/13(木)18:30-20:00 第4回 6/27(木)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/10(木)18:30-20:00 第2回 10/24(木)18:30-20:00 第3回 11/7(木)18:30-20:00 第4回 11/21(木)18:30-20:00



経済学部  
経済学科教授  
川西 諭

## 知恵を求めて一変革の時代を生きる心とその静けさ

神学者R. ニーバーの祈りとして知られるThe Serenity Prayer に、「主よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、その両者を見分ける英知をお与えください」という文言があります。物事が目まぐるしく変化していく今、私たちはいかにこの「英知・知恵」を生きることができるでしょうか。

本講座では、主にキリスト教神学（聖書）と現代心理学の視点から、知恵を探し求める人間とその生を考えます。各回のテーマとして以下を考えています。①現代の私たちとネガティブ・ケイパビリティ、②老いと知恵、③聖書が語る幸い、④十字架の知恵、神の知恵と人間の知恵。

春学期開講日程 第1回 5/31(金)18:30-20:00 第2回 6/14(金)18:30-20:00 第3回 6/28(金)18:30-20:00 第4回 7/12(金)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/11(金)18:30-20:00 第2回 10/25(金)18:30-20:00 第3回 11/8(金)18:30-20:00 第4回 11/22(金)18:30-20:00



神学部  
神学科教授  
武田 なほみ

## 人生100年時代、人びとの人生ドラマは どう変わってきたかー大家族からおひとりさまへー

日本の人口構造の変化として人生100年時代並びに少子高齢化が着目される中、そのことは私たちの身近な事象として家族や人生の急激な変化として現れてきています。1000年後に日本人がいなくなることも推測されている少子化、世界トップの比率で進む高齢化はともにマクロ的には課題先進国・日本をしめし、ミクロ的には大家族からおひとりさまの増加への世帯構成の変容がそれと連動しています。そこには、誰もそういうことをしようと思っていないのに現実化してしまう、〈近代〉という社会の動きがもたらした意図せざる結果が横たわっています。

本講座では、まず人口構造の少子高齢化の実情を説明し、その後、社会学研究として、人生を家族の周期ととらえるライフサイクル論、歴史の刻印を受けながら個々人が生きていく人生たるライフコース論といった議論を紹介します。それらをふまえ、私たちの人生ドラマ・人物史はどのように変わっていき、さらにこの先、どのようなことが待ち受けているのかを考察していきます。社会学の研究視点を楽しみたい方々のご参加をお待ちしています。

春学期開講日程 第1回 5/28(火)18:30-20:00 第2回 6/11(火)18:30-20:00 第3回 6/25(火)18:30-20:00 第4回 7/9(火)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/5(土)10:00-11:30 第2回 10/19(土)10:00-11:30 第3回 11/16(土)10:00-11:30 第4回 11/23(土)10:00-11:30



総合人間科学部  
社会学科特別契約教授  
藤村 正之

## 持続可能なまちづくり

「まちづくり」は、「都市計画」という用語と異なり、市民が主体となった都市形成という側面を強調する言葉として、1970年代以降に広まったとされています。21世紀の日本では、地方都市の中心市街地衰退の問題に象徴されるように、全国規模の人口減少と少子高齢化が進むなか、まちや集落などの地域社会の持続可能性が問われています。近年用いられる「地方創生」という用語も、「まちづくり」をめぐる文脈の変化を踏まえたものです。21世紀におけるまちづくりを、持続可能性という視点から捉えるとき、その特徴が見えてきます。

この講座では、おもに地方小都市や中山間地といった人口減少に直面する自治体の例を取り上げながら、福祉、交通、防災など、異なる主題をめぐって取り組まれるまちづくりの事例を読み解くことを通じて、21世紀の日本における社会変革の可能性について考えてみたいと思います。

春学期開講日程 第1回 5/20(月)18:30-20:00 第2回 6/3(月)18:30-20:00 第3回 6/17(月)18:30-20:00 第4回 7/1(月)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/7(月)18:30-20:00 第2回 10/21(月)18:30-20:00 第3回 11/11(月)18:30-20:00 第4回 11/25(月)18:30-20:00



総合人間科学部  
社会学科教授  
田淵 六郎

## 個人と組織の「自己変革」とイノベーションのプロセス ーイエズス会の精神性が教える、個人・組織・社会を 根本から変容させる方法論ー

個人や組織として、進むべき方向性をどのようにして選ぶことができるのでしょうか？また、変えたくても変わらない私たちを、その根本から本来進みたい方向に向かってどのようにして変えることができるのでしょうか？上智大学の基本的な教育理念であるキリスト教ヒューマニズム、また上智大学の設立母体であるイエズス会の精神性から、現代においても必要な個人と組織の自己変革の方法論について考察します。私たちは、不安を感じながら変動の時代を歩んでいます。イエズス会が誕生した16世紀の世界も、大航海時代、ルネサンス、宗教改革と、大きな変動の時代でした。その変動の時代にイエズス会はどのようにして、進むべき方向性を選んできたのでしょうか。また、13億人のカトリック信徒の頂点にいるローマ教皇フランシスコが提唱する「共に歩む教会」にも触れ、個人だけではなく、他者と共に、組織や共同体として変革していく方法論についても考察します。

春学期開講日程 第1回 5/9(木)18:30-20:00 第2回 5/23(木)18:30-20:00 第3回 6/6(木)18:30-20:00 第4回 6/20(木)18:30-20:00

秋学期開講日程 第1回 10/3(木)18:30-20:00 第2回 10/17(木)18:30-20:00 第3回 10/31(木)18:30-20:00 第4回 11/14(木)18:30-20:00



カトリック・イエズス会センター  
イエズス会神父  
山内 保憲

お問い合わせ先

i

上智大学四谷キャンパス1号館1階  
学事局Sophia Future Design Platform 推進室

お申し込み  
は  
こちら



<https://sgcp.sophia.ac.jp/>



[global-citizen-co@sophia.ac.jp](mailto:global-citizen-co@sophia.ac.jp)



上智地球市民講座